

EBOOK

# インテリジェントキャプチャについて 知っておくべき10項目

**Brainware**<sup>™</sup>  
by Hyland

》インテリジェントキャプチャは、紙文書や電子文書の処理方法を根底から変え、リアルタイムで価値を引き出す高度な技術です。

インテリジェントキャプチャは、部門や業界を超えて進歩するにつれ、プロセス管理者の注目を集め、従来の業務手順、組織におけるグループ間のやりとり、さらに、これまで一貫してプロセスにかかる費用を固定費とみなしていた考え方も一変しようとしています。

この革新的な技術について知っておくべき  
10項目を詳しくみていきましょう。



# 1

## インテリジェントキャプチャは 人件費を削減し、人的資本を最大化する

従業員が、請求書、発注書、送金伝票などを確認して入力するなどの面倒なルーチン作業をしていれば、彼らのやる気や潜在能力が無駄になってしまいます。一方で、自動化によって技術レベルの低い単純労働が必ず取って替えられると非難されてきました。しかし、実際には、**手作業のタスクを減少させることは、生産性向上の主要促進力**であり、誰にとっても生活水準が上がる技術です。

手作りの物づくりが組み立てラインでの物づくりに変わり、最終的にはロボットが取って代わるように、紙文書や情報経済に必要な電子文書の増大の流れが、自動化した処理に変わろうとしています。このような変化は、10年前には想像もできなかったことです。

この変換の第一波は、テンプレートを使用する光学文字認識(OCR)で、コンピューターや請求書システムによる、基本レベルでの印刷文字や手書きの文字読み取りを可能にしました。ただし、当初のエラー率は非常に高く、テキストは特定ページの定義した位置になければならず、抽出したテキストを解釈するロジックは、初歩的なものでした。

数年間の停滞を経て、革命的と言えるインテリジェントデータキャプチャが登場しました。かつて揺るぎなく恒久的と考えられていた人による文書処理の付加価値が遂に排除あるいは大幅に減少されることにビジネス界が初めて気付きました。



## インテリジェントキャプチャは、処理をスピードアップし、経理業務を促進する

ある組織では、インテリジェントキャプチャプラットフォームのBrainwareを使用し、事前に確認することなく3,000枚以上の請求書からデータを抽出することに取り組みました。

異なる業者から受け取る文書は、言語もフォーマットもさまざまで、データが無効だったり不足していたりすることもありましたが、35%が問題なくBrainwareのキャプチャシステムを通過し、人的介入なしにERPシステムへ転記されました。また、必須フィールドの90%が自動的に取り込まれました。

本番環境でソフトウェアを実装した後、同組織では、3日以内に人員を80%削減しました。現在では、初めてスキャンする形式の請求書でも、スキャンから転記まで50%以上の成功率とみなされています。

経理マネージャーは、Brainwareの自己学習機能によって、この数字がさらに20~30%増加すると評価しています。

高い成功率を誇るソリューションは、経理担当者にとって、退屈な業務が減り、新たな挑戦、意欲的な取り組み、組織の前進といった人的資本を必要とするタスクの増加を意味します。

インテリジェントキャプチャ技術で得たメリットによって、事業活動の活性化、生産性の上昇、顧客満足度の向上、効率化がもたらす早期支払いの割引き利用が可能になります。

# 2

## インテリジェントキャプチャは サイクルタイムを短縮する

サイクルタイムとは、反復するプロセスの処理時間を示す別の表現方法です。インテリジェントキャプチャソリューションでは以下が可能です。

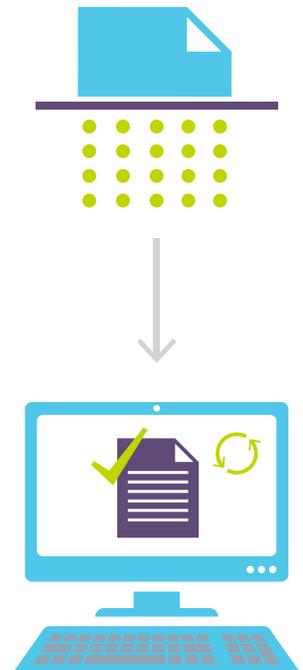
- 新しい形式の文書でも、内容を解読してすばやく認識し分類
- 人が行うよりも速く文書データを抽出、解釈、検証
- 人手を介した業務フローや物理的な文書の処理に関するボトルネックを排除
- 抽出した情報をコンテンツ管理、ERP、その他の業務システムに即時転送、そこから検索や分析、処理ができるようになるだけでなく、既存データとの同期も可能

# 3

## インテリジェントキャプチャは 精度を向上する

かつて部屋全体を埋め尽くしたコンピュータを少数の啓発されたエリートのみが操作していた頃、オフィスの掲示板には、「失敗は人の常。ただし、大失敗に必要なのはコンピューター」と書かれていました。

インテリジェントキャプチャを実際に見たことがなければ、種類の異なる文書の束をセットする、そばにいなくても接続したコンピュータで請求書の支払いをする、または、読み取ったデータに基づいて重要なタスクを実行するといったことは、信じがたいことに聞こえるかもしれませんが、しかし、そういった心配は不要です。なぜなら、文書のサイズ、書式、言語、記号、画像の品質に関わらず、**この技術は、多様な文書を識別して理解するように設計されているからです。**



さらに、インテリジェントキャプチャ技術は、データを既存のコンテンツ管理、ERP、経理、その他のバックエンドシステムに対して迅速に検証します。これは、人間のオペレータがインテリジェントキャプチャと同じ作業をした場合、文書を読んでデータを手入力し、手作業による退屈な照合を行う必要がありますが、インテリジェントキャプチャの場合は、すべてが自動的に行われるため、追加の保護レイヤが提供されることを意味します。

成熟したインテリジェントキャプチャ技術は、詳細な設定なしでフィールドレベルでの高いデータ抽出率を日常的に達成します。これらのテクノロジーは、あらかじめ設定された精度閾値以外の結果や判読不可能なデータを、修正や意思決定のためにオペレーターに送信するように設定することもできます。

さらに、システム自体がますますスマートになり続ける一方で、管理された学習機能は、プログラムの検証インターフェースを介して、進化する文書読解の課題に対応する能力を提供します。

…管理された学習機能は、プログラムの検証  
インターフェースを介して、進化する文書読解の  
課題に対応する能力を提供します



# 4

## インテリジェントキャプチャは コンプライアンスの強力なツールです

ルールに従うことは、単に倫理的に良いというだけではありません。法的観点からも、規制要件が増えて企業が機密データへのアクセスを制限するよう求められているからです。**また、企業が携わるアクティビティの追跡や報告、保護ができることも重要です。**

山積みの紙文書やそれらを手作業で処理することによって、機密情報漏洩のリスクが高まることは明らかです。インテリジェントキャプチャが提供する機能には、セキュリティコントロール以外にも、コンテンツ管理システムとの連携による自動化したインデックスや検索、適切な特権を設定したディスカバリや法的手続きに必要な文書編集のサポートも含まれます。

さらに、ユーザーアクティビティや承認の自動ログを、誰がいつ何をしたかを証明する監査証跡として使用できます。

# 5

## インテリジェントキャプチャは 拡張性に優れている

情報に関連するキャプチャの課題は、1つの部門、チームまたはプロセスにのみ影響するものではありません。一般的に、組織全体や個々のプロセス内で明るみになります。事業が拡大するにつれ、効率の課題も出てきます。

これは、通常、追加のスタッフを雇用したり、処理の遅延リスクを受け入れたりすることを意味します。

**インテリジェントキャプチャは、極めて拡張性に富んでいます。事業の拡大に伴い情報が増加しても、スタッフの追加を余儀なくさせるわけではありません。**代わりに、システムが継続的に学習し、新たに追加される文書を効率的に処理します。

インテリジェントキャプチャソリューションは、クラウドでもオンプレミスでも実行できます。必要なものだけを購入する小規模展開から開始し、ニーズの増加に合わせて調整できます。

## 拡張性におけるインテリジェンスの重要性

これまで、自動キャプチャは、文書におけるデータの位置を人間のオペレータが正確に設定したテンプレートに完全に依存していました。これは拡張を検討する際に問題となります。

インテリジェントデータキャプチャソリューションは、この問題を軽減します。以下は、ソリューションに備わっている人間に近い特性です。

- パターンを見て重要な情報を識別
- ミスから学び、それを一般化して新しいまだ見たことのないものに適用
- 不完全を理解し、文書の小さな変更や品質に適応

インテリジェントキャプチャソリューションは、企業とともに進化し続け、組織内の絶え間ない変化の一步先を進みます。文書の変更から学んだものを適用するだけでなく、既存の知識に基づいて新しい文書を学び、必要に応じて組織の新分野にも展開できます。



## 買掛業務を簡素化

キャプチャ技術にとって、80以上の国や地域に9万人以上の従業員がいるグローバル企業以上に大きな課題となる企業は多くありません。

エンタープライズ規模のデータ処理能力と信頼性で、ある企業の財務組織は、買掛業務を単一の場所で一元管理し、SAPシステムに請求書を処理するグローバルプロトコルの標準化を実現しました。

# 6

## インテリジェントキャプチャでは 紙はただの始まりにすぎない

キャプチャ技術が紙文書の処理から生じる負担を取り除くために開発されたことを疑う余地はありません。しかし、現代のサプライチェーンやデータフローでは、多くの種類の電子ファイルを使用しており、初めてデータを画面で確認する場合、手作業で画面上でデータを読んで解釈する旧式のフロントエンドキャプチャと変わらず、特に何か強化されたとは言えません。

マルチチャンネルインテリジェントキャプチャソリューションは、HTMLフォーム、PDF、EDI フィード、XMLおよび、その他の文書ソースなど、事実上どのようなファイル形式でも、スキャンに固有の光学的な制限なしに1枚の紙のように読み取って解釈できます。



...事実上どのようなファイル形式でも  
1枚の紙のように読み取って解釈できます

# 7

## インテリジェントキャプチャは 買掛処理向けだけではない

自動キャプチャ技術が買掛業務で優れた実績を上げている一方で、**この技術は、企業における別の分野の問題も解決します。**

組織内で大量の文書や情報を定期的に処理する部門に注目し、業務オーナーに以下のような質問をしてみてください。

- プロセスには、どの程度のヒューマンタッチポイントがありますか？
- 情報をプロセスに入れた後、どこに移動させますか？
- 情報は、特定のシステムまたは担当者にルーチンされる必要がありますか？どのようにそこに到達しますか？

こうした対話を通じて、データ入力や文書分類プロセスの手作業について聞くことになるでしょう。

現在、これらのプロセスが問題なく機能しているとしても、実際には、人が介入することでプロセス進行に時間がかかり、ミスが発生しやすくなっています。**組織のこのような状況を打開するのが自動キャプチャソリューションです。**自動キャプチャソリューションを使用することで、データの質の向上、プロセスや意思決定のスピードアップが実現します。



アーカンソー大学 (University of Arkansas、U of A) では、転送された成績証明書が未処理で残されていたために対応が遅れ、優秀な学生を確保できなかったことから、Brainwareの成績証明書処理に注目しました。PeopleSoftシステムと連携させ成績証明書処理をスピードアップすることで、成績証明書の転送処理が加速し、これまでなかった高校の履修データの取得も可能になりました。

「これまでのように入学事務局と教務課が手作業で同じ成績証明書の評価ではなく、教務課が作業を完了した結果を使って入学事務局が仕事を進められるようになり、学生の入学許可がより迅速になりました。Brainwareのデータ抽出とPeopleSoftとの連携で、重複作業をなくし、重複する成績証明書の受領も少なくなりました」とRobin Carr氏(Director of Academic Records at U of A)が話します。

Brainwareを使用することで、アーカンソー大学は、入学登録ピーク時の成績証明書処理に毎年必要となる担当者の残業を排除できました。大学では、担当者を別の同等の業務にあて、成績証明書の未処理を防ぐことができました。



## インテリジェントキャプチャは レポートや分析にも対応する

ソリューションの重要な機能にプロセスの洞察とパフォーマンスの監視があります。業務プロセスに関するダッシュボードの情報やレポート情報を活用するには、権限が必要となります。

Brainwareのようなインテリジェントキャプチャには、内蔵されたコンソールがあり、バッチステータス、担当者統計、抽出精度、レポートや分析ツールなどを監視し、文書の処理に対する洞察を即時に得る上で役立ちます。また、必要に応じて、サードパーティのレポートツールと連携することもできます。

手作業の文書の処理では、既に多くの負担を抱える担当者にとってデータ収集はさらなる余分な作業となりますが、**インテリジェントキャプチャでは、当然かつ簡単に実行されます。**

# 9

## インテリジェントキャプチャは 迅速に投資対効果を実現する

成功する組織は、新しいツールのコストのみに注目しません。それぞれのツールがもたらす効率性、コスト管理、収益生成のメリットに関心を向けます。旧世代のOCR採用時でも、時間の経過とともに投資対効果が得られると考えていましたが、インテリジェントキャプチャは、そのような考え方を遥かに凌ぐ成果を発揮します。

事実、インテリジェントキャプチャの投資対効果は、通常、12～18ヶ月で実現しますが、一部の企業では、さらに早く実現しています。



「導入したすべての自動化の結果、かつて2億ドルだった当社の売掛部門と同じ担当者数で、現在の15ドル規模のビジネスを行っています。このインテリジェントキャプチャソリューションは、売掛担当者が効果的かつ効率的になれる主要要素です」

Old Dominion Freight Line  
情報技術バイスプレジデント  
Ken Erdner氏

# 10

## インテリジェントキャプチャは すぐに本格始動する

Brainwareのようなインテリジェントキャプチャソフトウェアは、テンプレート、キーワード、定義、分類、インデックスを使用せずに非構造化文書进行处理するように設計されています。

限定した良質のサンプル文書の処理に基づいた短期間の実装、設定期間に続き、システムは、ユーザー受け入れテストを経て実際の業務を開始し、これまで説明してきたすべてのメリットを提供します。



インテリジェントキャプチャソフトウェアは、非構造化文書进行处理するように設計されています

# Brainware™

by Hyland

詳細は [Hyland.com/Brainware](https://www.hyland.com/Brainware) をご覧ください